

●公益法人Ⅲα Version 6.702、公益法人α Version 7.702

当プログラムは、マイクロソフト社のサポート対応終了に伴い、Windows XP・Vista 搭載機へのインストールは不可となっています。

◆ ATLAS シリーズに伴う改良、修正を行いました。

※詳細は、次ページからの“公益法人Ⅲd b (VERSION:6.702)、公益法人d b (VERSION:7.702) の変更点”を参照してください。

改良・修正

I. 導入・更新

1) 翌期更新

- ・財産目録の[F11 詳細入力]を開いた科目に対して、内訳金額(貸借対照表価額)を「0」にしていたのを空白にするように変更しました。

2) データ抽出

- ・合併マスターにおいて特定収入計算表の「計算表2(1) 特定収入の金額及びその内訳書」が正しく集計されない場合があったのを修正しました。

II. 登録・入力

1) 仕訳入力

①通常入力

- ・通常入力形式でEnterを押下したときに、直前の仕訳が複製されない場合があったのを修正しました。
 - 1 仕訳目を入力
 - 2 仕訳目を入力
 - 3 仕訳目の日付でマウスで1仕訳目にフォーカスを移動させる。
 検索項目もしくは検索タブに移動して、通常入力タブに戻る。
 そのままEnterで送ると1仕訳目が3仕訳目に複製されていました。
- ・仕訳表示行の摘要欄でTabを押すと摘要複製機能を使用できますが、複製したい摘要欄をマウスでクリックしても、画面右側の番号に変更が反映されていなかったのを修正しました。



②検索項目・検索

- ・諸口に枝番を付けている時に入力漏れを検索するために、検索項目で「借方枝番なし」「貸方枝番なし」「貸/借 諸口」で検索すると検索できるが、「貸借枝番」に数字が入った状態だと、「貸借枝番」がグレーになるにも関わらず、正しい検索結果にならなかったのを修正しました。
- ・消費税属性が非課税・不課税の科目を使用し消費税5%を設定している仕訳の借方・貸方の科目を入れ替えるように一括修正を行った場合、税率の変更を税区分の変更の前に行っていたため、変更が反映されなかったのを修正しました。
- ・仕訳検索を行い、検索画面で範囲指定をして「仕訳コピー」し、通常入力画面で「仕訳貼り付け」を行った後、続けて検索条件を変え、再度検索画面から範囲指定をして仕訳コピー、仕訳貼り付けをした際に前回範囲指定した仕訳も含めてコピーされていたのを修正しました。

③伝票入力

- ・伝票入力形式で借方科目のみ入力を行ない、その後[F7 定型伝票]から登録済み定型伝票を呼び出してセットした後、途中入力になっていた借方科目のみ入力した仕訳を削除して、定型伝票から呼び出した仕訳の金額を入力し、F11 伝票登録を行っても伝票登録ができなかったのを修正しました。
- ・[F4 入力設定]で伝票番号を自動加算の設定にし、伝票入力を開き、何も入力せず[F5 前の伝票]に戻って確認し、[End 入力へ]で新規入力に戻ると伝票番号が消えていたのを修正しました。

④定型仕訳

- ・定型仕訳をユーザー単位で使用している場合は、業務選択でユーザー切替後、仕訳入力時に、定型仕訳をログインしたユーザーの定型仕訳が呼び出されるように修正しました。

2) 残高問い合わせ

- ・日指定を選択し、[F11 発生残高] から印刷を行う場合、「会社名は顧問先情報を使用する」「会社コードを出力」が機能していなかったのを修正しました。
- ・同月内で、同額の発生金額で相殺するような同一枝番の仕訳(科目は同じで、同金額をマイナス)がある場合に、残高問い合わせ(枝番)を日指定で見ても表示する金額は相殺後の0と判断されて出てきていたのを修正しました。
- ・発生表示に合わせて、累計の場合に「〇月累計」と表示するように変更しました。
- ・日指定で複数月指定し、[F11 発生残高] で印刷で複数ページになる場合、2回目以降正しく出力されなかったのを修正しました。(印刷・Excel出力共)

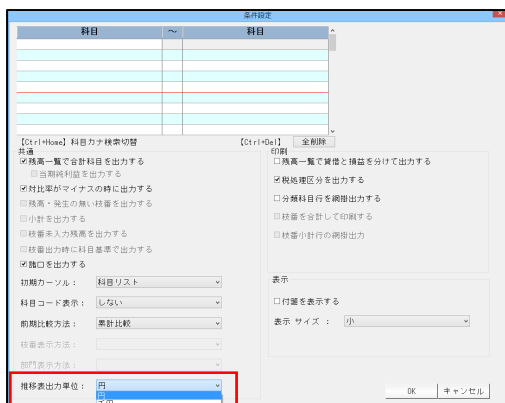
※印刷ダイアログにおける印刷範囲のページ数にも問題があった為、[F11 発生残高] では印刷範囲指定をカットしました。

- ・推移貸借、推移損益で、円単位・千円単位の切り替えができるように対応しました。

[F6 条件設定] に推移表出力単位：円・千円を追加しています。

※千円単位にした場合、千円未満の金額表示は「0」で表示します。

※推移表画面下に、(単位：円) (単位：千円) を表示します。



- ・[F6 条件設定] で「部門未入力残高を出力する」にチェックが付いている状態でも、仕訳で1つでも部門の入力がないと「部門未入力」として、部門別残高に表示されなかったのを、部門の発生がない科目に対しても表示するように変更しました。
- ・推移タブで月指定して別タブに切替えた時に、推移タブの月指定を反映して集計するようにしました。

3) 定型仕訳登録

- ・定型仕訳登録で消費税を5%で登録しているのに、翌年更新すると8%に変更される場合があったのを修正しました。(消費税を5%に設定後、翌期更新を2回行うと8%に変更されていました。)
- ・かな入力モードで「け」「」と入力した際に濁点だけで検索して科目が元に戻っていたのを、他と統一して濁点・半濁点のみは検索しないようにしました。
- ・1仕訳目をカナ+F12で摘要検索した後、2仕訳目の摘要欄で科目対応摘要を表示させると、1仕訳目の科目に対する科目対応摘要が表示されていたのを修正しました。

4) 伝票発行

- ・摘要のフォントが文字数に関係なく、8.4ポイントで出力していたのを、32文字以内であれば10ポイントで出力できるようにしました。

[F12 出力条件]

【出力選択】に「摘要が32文字以下の時に、フォントサイズを大きくする」を追加しました。

摘要文字数が全角 32 文字以内の場合、摘要のフォントサイズは 10 ポイントで出力します。

※入金伝票、出金伝票、振替伝票の印刷時のみ有効です。

集計後の画面表示は従来通りです。

※複合仕訳の場合は、借方／貸方の摘要が双方とも全角 16 文字以内の場合に 10 ポイントで出力します。

また手形番号・手形期日等の摘要下部に入る項目がある場合にも、摘要が 16 文字以内であれば 10 ポイントで出力します。

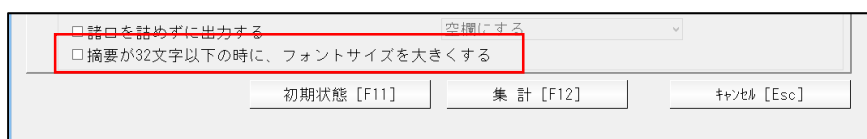
【振替伝票】

※下記に該当する場合、枠線と文字が重なるため、7.8 ポイントで出力します。

1. 「伝票下部への会社名の出力」のチェックが ON で、複合仕訳で摘要 3 行、4 行出力の場合
2. 「伝票下部への会社名の出力」と「付箋を出力する」のチェックが ON で、且つ単一仕訳の摘要が全角 21 文字以上（2 行出力）の場合

※下記に該当する場合、9.9 ポイントで出力します。

1. 「付箋を出力する」のチェックが ON で、32 文字以下



※設定はマスター単位で保存します。

※初期はチェック OFF にしています。

Ⅲ. 出力

1) 消費税額試算表・集計表・課税売上割合

① 消費税額試算表

- ・詳細設定で、「枝番表示を行う」「課税取引期間計より消費税額を算出する（総額）」にチェックを付けた場合、枝番無しで別記入力していると、別記分が科目名のみ表示され金額が損益計算書欄等に表示されなかったのを修正しました。

Ⅳ. 通信・移動

【顧問先用】

1) 会計事務所へマスター&データ送信・移動

- ・会社選択ボタンから、バージョンアップがかかるマスターを選択した時に、エラーになっていたのを修正しました。
- ・定型伝票データ送信時、定型伝票データが存在しない場合、登録数に不正値が表示されていたのを修正しました。

以上